

無償資金協力に係る事後評価票

(注)本案件は外務省評価案件であり、外務省による一次評価を踏まえ外部有識者による二次評価を実施していますので、評価項目ごとの二次評価結果を追記しています。二次評価の概要については、外務省ホームページに掲載されている無償資金協力におけるプロジェクト・レベル事後評価報告書(平成18年度)をご参照下さい。

担当公館名：在トリニダード・トバゴ日本国大使館	
国名：セントルシア	案件名：沿岸漁業振興計画
E/N署名日：2001年7月27日	供与限度額：13.18億円
先方実施機関：農林漁業省水産局	完工日：2003年3月31日
他の関連協力：なし	
1. 案件の目的	主要水揚地であるスプレー及びショゼールにおいて、防波堤、棧橋、製氷・貯氷施設等の水産施設を建設し、漁業活動の安全性及び操業効率の向上並びに漁獲物の鮮度向上を図ることを目的としている。
2. 案件の内容	<p>(スプレー)</p> <p>土木施設： 棧橋、斜路、護岸等</p> <p>建築施設： 管理棟、ワークショップ、漁具倉庫、鮮魚販売所等</p> <p>設備・機材等： 製氷機、貯氷庫、給油施設、浄化槽等</p> <p>(ショゼール)</p> <p>土木施設： 防波堤、斜路、護岸等</p> <p>建築施設： 管理棟、ワークショップ、漁具倉庫、鮮魚販売所等</p> <p>設備・機材等： 製氷機、貯氷庫、給油施設、浄化槽、FRP（繊維強化プラスチック）漁船20隻等</p>
3. 案件の妥当性	<p>全般的評価：A（外部有識者による二次評価:B+）</p> <p>詳細評価：</p> <p>セントルシアの「中期開発戦略計画」における政策目標として、農業に偏重した国家経済を再構築し、観光業の振興に続き水産、林業、畜産を含む農業の多様化を図ることとしており、また「水産開発計画」における政策目標として、漁民の生活水準向上、水産物の供給増加と質の向上、輸出振興による外貨獲得等を掲げており、これらの目標に合致している。スプレー及びショゼールはセントルシア西海岸における主要水揚げ地でありながら十分な整備が施されていなかったことから、この地域における整備の必要性は現地のニーズにも合致している。</p> <p>また、第1回日・カリコム（CARICOM（カリブ共同体）：カリブ諸国を中心に14ヶ国1地域からなる地域共同体）閣僚級会合（2000年）において策定された「21世紀における日・カリコム協力のための新たな枠組み」の中で、水産業の更なる強化のためにインフラ開発等の分野において緊密な協力を行うことにも合致している。</p> <p>本案件は、我が国の対セントルシア援助重点分野の一つとしている観光・水産・農業に合致する。</p>
4. 施設／機材の適切性・効率性	<p>全般的評価：A-（外部有識者による二次評価:B-）</p> <p>詳細評価：</p> <p>スプレーにおいて、管理棟、ワークショップ等の施設は有効に利用されている。</p>

	<p>製氷機による氷の販売については、観光地であるが故にホテルやレストランからも買い付けに来ており、漁業者よりもむしろ一般向けの販売の需要が高いが十分活用されている。施設整備後、施設を利用する人が増加し、漁具倉庫や販売所のスペースが不足しているが、それはむしろ街が活性化された結果であり、総じて適切な選択、投入であると言える。</p> <p>ショゼールにおいても、管理棟、ワークショップ、漁具倉庫、販売施設等は概ね使用されている。施設整備後、漁業者（専業及び兼業）が微増しているものの（2001年：136人→2005年：140人）、供与されたFRP漁船は未だ半分程度しか売却できていない。</p>
<p>5. 効果の発現状況（有効性）</p>	<p>全般的評価：B（外部有識者による二次評価：B）</p> <p>詳細評価：</p> <p>以下の理由により、効果は概ね発現していると考えられるものの、一部効果が十分発現していない。</p> <p>（スプレー／個別評価：A）</p> <p>本計画実施後に想定された効果は（1）水揚作業の効率化、（2）労働条件の改善、（3）漁業活動の活性化、（4）流通機能の強化、（5）品質の向上・魚価の安定、である。</p> <p>（1）～（3）に関し、水揚げ場の整備、ワークショップの整備等によりこれまでの作業が効率的かつ安全に作業が実施できるようになったと多くの漁業者から聞かれ、また本施設整備が街の活性化にも貢献し、一部漁業者から収入が増加した旨回答があったことから、効果は十分発揮していると考えられる。開放型の集会所は漁民の集会のみ使用されるだけでなく、市場が賑わう週末には観光客や市場を訪れた市民の休憩所としても広く活用されており、漁民間のコミュニケーションの促進に大きな役割を果たしている。（4）、（5）に関し、製氷機等の整備より漁業者が氷を入手しやすくなり、これまであまり利用していなかった氷を積極的に使用するようになり（約0.3ton/日）、同地区の漁獲物の品質向上につながっている。また、地元が観光地ということもあり、販売所の整備により流通機能は強化しているが、公営事業体である水産流通公社に比べ若干高値（0.5～2割程度）で取引されている。</p> <p>（ショゼール／個別評価：C）</p> <p>本計画実施後に想定された効果は（1）生産性の向上、（2）漁業者及び漁船の安全確保、（3）水揚作業の効率化、（4）労働条件の改善、（5）漁業活動の活性化、（6）品質の向上・魚価の安定、である。</p> <p>（1）～（5）に関し、施設整備により静穏域、水揚げ場、漁船等修理場も確保され、安全に作業は出来るようになったものの、湾内に堆砂が発生する問題が生じている。この影響で漁船の係留スペースが少なくなる、湾内に入るとエンジンが砂底と接触しエンジントラブルが発生する等の問題が発生しており、漁業活動に支障を与えている。そのため、早く砂を湾外に出して欲しい等多くの要望が漁業者から聞かれ、この問題が生産性の向上や水揚作業の効率化等の効果の発現を阻害し</p>

	<p>ている。ただし、コンサルタントによる維持浚渫作業が実施される方向で協議が進んでおり、状況の改善が見込まれる。なお、(6)に関し、製氷機等の整備より漁業者が氷を入手しやすくなり、これまであまり利用していなかった氷を積極的に使用するようになり(約0.1~0.5ton/日)、同地区の漁獲物の品質向上につながっている。</p>
6. インパクト(上位目標への影響等)	<p>全般的評価：B (外部有識者による二次評価:B)</p> <p>詳細評価：</p> <p>セントルシアにおける水産業のGDP貢献率は、2001年は1.5%以上占めていたが2001年以降の浮魚資源(トビウオ、シイラ、サワラ等)の減少により漁獲量が減少し(2001年1,967ton→2005年1,386ton)、結果GDP貢献率も2005年には1%強まで減少しており、本施設整備が水産物の供給増加には結びついていない。そのような状況であるものの、スフレー及びショゼールにおける漁業関連者数は増加しており(2001年295人→2005年312人)、また国内全体の漁業関連者数も年々増加し(2001年2,093人→2005年2,267人)、産業の多様化、雇用の拡大に貢献している。</p>
7. 自立発展性・さらなる改善の余地 (改善の余地がある点については以下に記入)	<p>全般的評価：B (外部有識者による二次評価:B-)</p> <p>詳細評価：</p> <p>機器類の保守・修理等について、スフレー及びショゼールともメンテナンスを行うスタッフは常駐しておらず、修理等が必要な度に業者を呼ぶようにしている。現在のところ、それほどのメンテナンスを必要とせず、また常駐させないことによりコストを安く押さえられるということであるが、長期的に機器類を使用するにあたり将来的にもそのような維持管理体制で行うというのであれば十分とは言い難い。スフレー及びショゼールとも施設の維持管理にかかる資金が十分に積み立ててられていないということであったので、今後の維持管理に係る費用確保が課題である。堆砂問題については、コンサルタントによる維持浚渫及び機材の供与を通じ、漁港維持対策方法についての技術指導を実施する方向で協議を行っており、今後の自立発展性が見込まれている。</p>
(1) 対応方針	<p>維持管理に係る資金については、さらなる施設の活用により販売利益を上げる必要があり、そのことは運営をする漁協も把握しており鋭意努力している。また、堆砂問題については、現在、コンサルタントの資金により作業が行われる方向で協議が進められているため、被援助国のオーナーシップを高めるよう注視すべきである。</p>
(2) 対応方針理由	<p>現在は、ショゼールにおける堆砂問題が本施設の効果を大きく阻害しており、この問題の解決が施設の効果発現に大きな影響を与え、また最終的には被援助国による維持管理が必要になるため。</p>
8. 広報効果(ビジビリティ)	<p>全般的評価：B (外部有識者による二次評価:B)</p> <p>詳細評価：</p> <p>スフレー及びショゼールとも、総督、首相、関係閣僚が出席のもと引渡式が盛大に行われたことにより地元を含む多く市民が日本の援助により施設が建設さ</p>

れたこと知っている。しかし、引渡後4年が経過した現在、首都カストリーズ等直接大きな裨益をもたらさない地域では、日本の援助により建設されたことを今でも知っている者は水産関係者及び政府関係者以外ではあまりいない。

なお、スフレーは観光地で観光客が多く訪れるという立地条件に加え、本施設敷地内の鮮魚販売所、管理棟周辺の空きスペースでこれまで街の路上で青果等を販売していた売り子達が敷地内で販売するようになり、街では渋滞緩和及び景観向上、水産施設内では鮮魚販売施設との相乗効果により、特に土曜日の市場では施設が一層の賑わいを見せている。このように本施設整備により街全体に大きな効果をもたらしたことから、漁業者のみならず同地区の市民からも本施設に好印象を持っており、同地区の住民は日本の支援であることを良く知っている。



図1 水産施設敷地内に移動した青果等の売り子（スフレー）

9. 被援助国による評価  
(外交的効果についても、本欄に記述する)

施設を管理する農林漁業省水産局からは両施設の整備内容自体は満足であるが、ショゼールの堆砂問題が現在までに解決に至っていないことに懸念を示すことに意見が集中した。

(スフレー)

漁業者から施設整備後、作業が効率的かつ安全に実施できるようになり大変満足しているとの回答が多く寄せられ、また施設運営管理者からも「10点満点中10点以上」と高い評価が得られた。また、施設整備後の市場の活性化及び街の景観の改善等副次的な効果も得られたことにより、周辺住民からも感謝の声が聞かれた。

(ショゼール)

施設の規模や内容に関して不満は聞かれなかったものの、堆砂問題に関する不満が、施設運営管理者及び多くの漁業者から聞かれた。この堆砂問題が本施設の評判を下げている。ただし、堆砂問題さえ解決すれば非常によい施設であると補足していた。

10. 提言・教訓

施設が整備されたとしても、それを利用する漁業者の意識はすぐには変化しないようである。維持管理にしても、オーナーシップに欠ける傾向が見受けられる。施設整備後、施設を十分に活用するよう指導できる者を現地に配置するか、その指導者を育てるソフト的支援を併せて行うことが重要である。

11. その他